

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902389
法人名	医療法人社団淳彩会 永山循環器科クリニック
事業所名	医療法人社団淳彩会永山循環器科クリニック グループホームせせらぎの里
所在地	〒079-8417 旭川市永山7条4丁目2-1 (電話) 0166-49-6060

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成22年1月8日

【情報提供票より】 (平成21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 9月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	15人, 非常勤 4人, 常勤換算7.39人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	平屋 階建ての 1～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円			
その他の経費(月額)	水道光熱費21,000円、暖房費6,000円(10～4月)			
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 有りの場合償却の有無 有 / 無			
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	10名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.3歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永山循環器科クリニック、旭川ペインクリニック、たくま歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、地域と一体となって利用者を支え地域にその機能を還元していくという目標を掲げ平成17年に開設された。近くにある法人の病院や併設施設のパワーリハビリが利用可能となっている。建物はバリアフリーで、手すりやテーブル、椅子の高さに至るまで、利用者が安全・快適に暮らせるよう職員が検討し、愛着と家庭的な温かさを感じる佇まいとなっている。住宅地である地域との協働を大切にされた事業所の活動は、開かれた雰囲気の中利用者が入居前の生活習慣や人間関係を継続しその人らしく生活することを支援している。地域のニーズを把握し、独居の高齢者に対する支援や地域向けの講習を開催するなど地域貢献や同業者のネットワーク運営を通して更なる活躍が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 取り組みを期待したい項目について検討し、取り組みが出来る部分から改善がなされている。全体的な業務の流れに関するものや、職員で話し合い、段階的な改善や時間を掛けた改善が必要な項目には改善計画シートなどの活用が示唆されていたが、その取り組みには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回までの自己評価の取り組み方を変更し、職員を3人ずつのグループに分け、それぞれ話し合いながら自己評価を作成し、ユニットごとに取りまとめている。職員同士で話し合い、わからない部分について助言を求めることによって以前よりも自己評価項目の理解が深まっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者を始め多様な出席者を得て開催されている。実施は3ヶ月に1回だが、今後は2ヶ月に1回を目処に開催できるよう検討が行われている。事業所の活動報告や併設施設での催し物の案内と共に、意見を受けたり話し合うことで事業所運営に役立っている。地域等との双方向的な協力関係を築く場ともなっている。職員が運営推進会議の内容を把握することでケアの向上や地域との関係構築の増進にも繋がっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に利用者の状況を伝えると共に、話しやすい雰囲気を作り意見などを伺うようにしている。外部の機関を明示し、意見箱を設置している。また、家族会が設置され、様々な行事の中で家族と交流し意向を汲み取るようにしている。各種の方法で受けた意見等は話し合いを行い迅速に反映するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の中心的存在として併設のふれあい会館を地域に開放し、利用者との交流の機会を作っている。地域のニーズを把握し、独居高齢者の安否確認や地域向け講習などの企画をし、地域に貢献している。防災の際の協力や日常的な付き合いが行われている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として施設設立時の思いである、利用者との関係を継続し、本人の持つ機能を生かす本人らしい生活の実現を踏まえ事業所の理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念と、それをケアの場面でどのように実現していくかをわかりやすくまとめた理行を管理者と職員が確認し合っている。職員はお互いの姿を見ながら利用者に対する尊厳を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関わりが利用者にとって活力となるよう、事業所の理解を深める取り組みが不断に行われている。地域のニーズも取り入れ地域から期待される事業所となっている。地域主催の旅行への利用者の参加支援や双方の行事への行き来など、活発な支援が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年までは職員個別に自己評価に取り組んでいたが、今回は3人1グループで自己評価に取り組んでいる。項目に取り組む中で職員の意見交換や理解が深まっている。管理者が個々の自己評価をユニットごとにまとめている。	○	自己評価にグループで取り組むことによって、職員が理解できなかった部分や、言葉にできなかった事柄が整理されている。今後は見出された課題を改善計画シートなどを活用しながら具体的に改善していく取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、町内会や行政の参加を得て行われている。事業所の状況の報告や防災について、また利用者の地域参加に繋がるよう、地域との関係作りも行われている。今後は、運営推進会議の開催頻度を増やしていくよう検討が進められている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、適正な運営と利用者の生活の質の向上のために、各機関との連携を大切にしている。日ごろから担当者との情報交換を心がけており、スプリンクラーの設置についてや、消防との非常時の打ち合わせ、包括支援センター等の研修への参加など、機会を捉えて行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、せせらぎの里便りを発行し、個人情報にも配慮しながら利用者の写真や行事の報告などを報告している。必要に応じて個別の状況の報告も合わせて行われている。電話での体調の変化等の連絡は随時行われており、面会時の報告と合わせて生活の全体的な様子がわかるようにしている。	○	家族への毎月の報告で利用者の個別報告は必要に応じて行われている。家族の来訪時などにきめ細やかな報告はなされているが、必要時だけでなく個別の生活状況等のおたよりなどでの報告も定期的に行い、記録していくことが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的機関の相談窓口を家族に伝えると共に、事業所の窓口も明文化し利用者に渡している。意見箱の設置や家族会の開催など、意見や不満を受け止める機会を作ると共に、家族との信頼関係を大切に、日ごろからお互いに何でも話し合える関係を築いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者が馴染みの職員と生活することの大切さを理解している。働きやすい職場の整備と職員の異動を少なくするようにしている。ユニット間での異動の場合などでも、利用者との関係が途切れないように職員が顔を見せる機会を作ったりしながら徐々に慣れるような支援をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議の中で職員の希望を確認する等、職員研修を計画的に進める準備が行われている。日常的に業務の中で実技を教え合う取り組みと、研修の案内があった際は受講を奨励している。外部研修の伝達などで共有し、全体のレベルアップにつなげている。運営者の協力も得ながら職員のタクトールケアへの取り組みが始まっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研究会で中心的な役割を担い、同業者とのネットワーク作りや交流を推進している。職員が事業所設立時やリーダー研修で他事業所で研修や交流することで学んできたことを事業所の向上に活かす姿を管理者は実感しており、今後も積極的に取り組む意欲に溢れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から施設長や管理者が利用者や家族と面接を行い、利用者の生活状況や希望を確認している。それまでの生活の継続や好きな事など、入居前から会議で取り上げ職員一丸となって利用者の不安の軽減に努めている。利用者の不安に寄り添うケアを心がけ、家族等と連携を取りながら支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や日々の生活の中から聴取した本人の得意なことや好きな事を発揮する場面作りを心がけている。地域の昔の様子を聞いたり、利用者が職員がパッチワークを習ったり、畑の作業や外国語など、利用者から学び、職員は感謝の言葉を伝えている。行事の中で職員が利用者からもてなされ、感謝の気持ちを伝えるなどの場面もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の情報収集と生活の中での利用者の思いを大切にし、双方のユニットの職員が、利用者の情報とそれぞれの気づきを共有できるよう会議で検討を行っている。意向の把握が困難な場合もしぐさや気分を汲み取り、理念や理行を踏まえたケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が所属するユニットの担当職員だけでなく、他ユニットの職員の意見も取り入れられるよう利用者の情報が全体会議の中で取り上げられ、その情報も盛り込み介護計画の素案が作られている。本人や家族の意向や希望、医療機関からのアドバイスなどを取り入れ計画を作成している。	○	職員が参画し、会議を開催しチームで計画が作成されている。日々の出来事の記録だけではなく、利用者の思いや職員の気づきなども盛り込み、その人らしい生活を支援するための計画に沿って評価にも活用できるよう、計画の作成や見直しに活用しやすい記録の方法に工夫が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の状況に合わせて3ヶ月、半年ごとなど、定期的に行われている。毎月モニタリングを行い利用者の生活の様子と計画の実施状況について検討している。体調の変化など変更が必要な場合には迅速に対応している。計画変更の際には医師や家族との連携と話し合いを十分に行い意見の反映を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	選挙や季節の贈答の買い物、利用者の家族の見舞いに職員が同行したり、行きつけの理美容院や商店への買い物など希望に沿って支援が行われている。家族の宿泊の受け入れを行うなど利用者・家族に対する支援が柔軟に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望するかかりつけ医の受診の支援を行っている。また、事業所及び協力医療機関の医師と利用者のかかりつけ医との情報の交換が行われ、日ごろの健康管理に役立てられている。看取りの際など毎日法人の医師が診察をするなど必要に応じた支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から余命の告知や見取りについて本人と家族の希望を聴取し、本人の信条や終末期のあり方について共に考えている。実際に看取りを行い、職員間で介護の限界や連携について話し合い、医療機関等との連携や看取りの方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時の研修でプライバシー保護の全体的な内容について学ぶと共に、全体会議の中などで、尊厳を基本としたケアや、書類の管理や薬箱、部屋の表札など、プライバシーに関わる問題について取り上げ検討している。写真等の公表など必要なものについて家族に説明し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを尊重し、食事や入浴などの時間などの希望や、その日その日に希望された外出の支援などを行っている。併設施設を訪問して気の合う仲間とマー جانを行ったり、地域やそれまでの関係の継続にも配慮しながら支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で食べる喜び、口から食べる楽しみを大切に、できるだけ経口で摂取できるよう取り組みが行われている。ジンギスカンや鍋など季節に合わせて提供し、外食やおやつを食べに出かけるなど、利用者の健康状態に合わせて提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	目安の時間や入浴頻度は提示されているが、利用者の入浴に対する希望を取り入れ個別に対応している。浴室にリフトを備え安全に入浴を楽しめるようにし、リラックスした雰囲気の中での職員との1対1の会話からケアに結びつくヒントも得ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の作品の発表を地域の中で行ったり、雪かきや畑仕事で収穫の喜びを分かち合うなど、尊敬されたり、感謝されたりするような利用者を輝かせる場面作りが行われている。併設施設を活用し、利用者と地域と一緒に楽しめる企画も多く行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候に配慮しながらできるだけ外出するような支援や機会作りを行っている。事業所に閉じこもらないよう、畑や併設施設、買い物など利用者の気分に合わせて気軽にかけられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみ行っている。玄関にはセンサーが設置され、職員が気配り目配りを行っている。施錠の弊害等について全体会議で取り上げ、利用者の外へ出たい気持ちや理由などに配慮し一緒に外出するなどの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力も得ながら避難訓練を行っている。また、定期的な救急救命講習の実施も予定されている。訓練や運営推進会議等を通して事業所の課題を明らかにし、様々な協力を得ながら安全確保の取り組みを推し進めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で、利用者に合わせた提供と摂取量や水分の記録が行われている。疾病や体調に合わせた摂取や薬の理解を深める取り組みと併せ、利用者にとって最適な食事について検討し、美味しく食べられるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設建設時から職員が同法人の既設事業所の状況を踏まえ利用者の自立や使いやすさを検討し、様々な工夫を盛り込んでいる。家庭的な暖かさと安全性に配慮された明るい共用空間は、思い思いに過ごしたり気の合う同士と一緒に過ごせるよう家庭的な飾りつけや家具の配置にも気が配られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが思い出の家具やその人らしい暮らしを実現するための品々と共に生活を送っている。職員は居室に対する希望や心身の状態に合わせたアドバイスを行い、習慣の継続や清潔で居心地の良い居室となるように支援が行われている。		

※  は、重点項目。